



# 登山 月報

JMSCA 登山月報 第652号 令和5年7月15日発行



ろうこんかい  
荘厳瑰麗

写真撮影：宮城県山岳連盟 齊藤幸太郎

8月11日 みんなで山を考えよう!  
祝「山の目」  
全国「山の目」協議会  
山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

第11回リードユース日本選手権南砺大会	2
第9回ボルダーユース日本選手権倉吉大会 (BYC2023) 開催報告	4
特別国体「燃ゆる感動かごしま国体」スポーツクライミング競技リハーサル大会	
第10回日本学生スポーツクライミング対校選手権大会 報告	6
J S P O 国体競技運営部会報告 (5/26)	6
2023年度 全国指導委員長会議・スポーツクライミング代表者会議報告	7
Enjoy Climbing	8
岡山県山岳・S C 連盟 自然保護委員会のSDGsな活動	9
令和5年度 定時総会・議事録	10
令和4年度 全国山岳遭難対策協議会 報告	11
JMSCA、表紙のことば、編集後記	12

# No.652





## 第11回リードユース日本選手権南砺大会

実行委員長 村岡 正己

写真は、27日(土)時計が19:40をまわった会場の風景です。暗闇に浮かぶ壁がスペクタルな世界を醸し出すスペクタルな雰囲気の中、第11回リードユース予選が終わったところです。

今回、少しでも選手の成長と機会を与える場面を増やそうと夜まで運営を見込んでのエントリー対応を実施しました。結果、昨年より32人多い276人の選手を受け入れしています。

ジュニア	女子23人	男子20人
ユースA	女子49人	男子59人
ユースB	女子63人	男子62人

会場	富山県南砺市の桜ヶ池クライミングセンター	
日時	予選 2023年5月27日	男女7:00-19:40
	決勝 2023年5月28日	女子7:30-12:30 男子11:30-16:30

28日、女子決勝。ユースBでは予選から好調の小田菜摘が完登し優勝。昨年の第10回に続いての連覇となりYFCから入ると4年連続の活躍となった。

が続いている。各カテゴリー同ルートであり、完登は小田のみ。女子のユースAでは望月萌叶、ジュニアでは高尾知那がともに高度43で優勝。

男子ユースBでは、長森晴が38+で初優勝。ユースA

では、今年LJCを制した小俣史温が45+で優勝。ジュニアでは、村下善乙がトップ手前の47+で優勝。

ユースにおいても、シニアの大会で活躍する選手が多くなってきており、さらにYFC上位の選手がこの大会でも決勝ののこるなど、カテゴリーで新たな時代を感じられる。

	5月27日(土)	5月28日(日)
選手	276	58
トレーナー	0	5
スタッフ	85	60
委託事業者等	15	15
VIP	0	15
観客(選手帯同者含)	268	198
	計644	351



男子ユースB			決勝		予選	
順位	氏名	BIB	高度	順位	Aルート	Bルート
1	長森 晴	MB50	38+	5	20+	35
2	濱田 琉誠	MB34	38	1	35+	38
3	戸田 稜大	MB04	37	5	29+	18+
4	笹原 蓉翠	MB43	31+	2	28+	32
5	上原 一剣	MB31	29+	3	28+	23
6	宮川 幸大	MB29	28+	4	22	29+
7	小山 楚嵐	MB20	26+	9	22	22+
8	藤田 楓	MB41	26	10	21	23
9	増田 凜世	MB06	21+	7	28+	19+
10	狹堂アラン学	MB33	21+	8	21+	23



女子ユースB			決勝		予選	
順位	氏名	BIB	高度	順位	Aルート	Bルート
1	小田 菜摘	WB05	TOP	1	34+	35+
2	麦島 心花	WB25	37+	4	23+	30+
3	山根 嘉徳	WB08	37	2	29+	31
4	久我 心結	WB55	32+	6	23+	29+
5	稲垣 杏	WB32	29+	6	23+	29+
6	横道 花凜	WB15	26+	5	13+	32+
7	長谷川 涼	WB28	26+	6	23+	29+
8	梶 絢香	WB51	26+	9	24+	28+
9	松浦 朱希	WB30	26+	10	25+	26+
10	狩野 凪	WB22	26	3	29	29



男子ユースA			決勝		予選	
順位	氏名	BIB	高度	順位	Aルート	Bルート
1	小俣 史温	MA17	45+	3	29+	38+
2	石津 元崇	MA57	38+	7	28+	34+
3	船木 陽	MA58	38+	10	28+	24
4	寺川 陽	MA51	38+	10	28+	24
5	佐々木玲偉	MA31	31	6	28+	35
6	和田 樹怜	MA44	30+	1	36+	38+
7	藏敷 慎人	MA33	26	2	36+	35+
8	隅谷 樂	MA42	21+	4	35+	33
9	石原 凜空	MA07	21+	5	29	33+
10	上原 玄武	MA23	21+	8	32+	22+
11	今井 遙音	MA52	21+	9	28+	28



女子ユースA			決勝		予選	
順位	氏名	BIB	高度	順位	Aルート	Bルート
1	望月 萌叶	WA06	43	2	34	35+
2	山 真奈実	WA04	42	1	32+	36+
3	柿崎 咲羽	WA41	41	7	19+	36+
4	永嶋美智華	WA48	37	3	29+	36+
5	萩原 香月	WA40	35+	6	28	33+
6	武石 初音	WA36	29	5	29+	35+
7	小林 和音	WA21	28+	9	24+	33+
8	藤村 侃奈	WA24	26+	4	29	36+
9	長谷川颯香	WA11	26+	8	26+	32+
10	小田 穂香	WA09	26	10	29+	22



男子ジュニア			決勝		予選	
順位	氏名	BIB	高度	順位	Aルート	Bルート
1	村下 善乙	MJ06	47+	5	40+	18+
2	鈴木 音生	MJ07	45+	1	40+	38+
3	関口 準太	MJ11	45+	2	35+	38+
4	上村 悠樹	MJ17	38+	3	29	34+
5	松岡 玲央	MJ08	37+	3	35+	33+
6	田宮 瑛人	MJ12	30+	8	20+	31
7	大西 蛍雪	MJ15	29	6	28+	34+
8	鈴木 大翔	MJ19	26	7	26+	28+



女子ジュニア			決勝		予選	
順位	氏名	BIB	高度	順位	Aルート	Bルート
1	高尾 知那	WJ11	43	1	35+	39+
2	葛生 真白	WJ04	42+	4	35+	36+
3	小倉 紗奈	WJ01	40+	2	35	40
4	美谷島ももか	WJ09	39+	8	29+	35+
5	工藤 空	WJ07	37+	8	29+	35+
6	竹内 亜衣	WJ19	26+	3	29+	41+
7	大澤 萼花	WJ23	26+	5	29+	36
8	篠崎 由希	WJ22	26+	6	27+	36+
9	野部 七海	WJ15	26+	7	31+	29+



今回、コロナもほぼ終息、第5類への移行となり、大会も以前の様相を戻そうと取組ました。その中で、冒頭にも書きましたが、選手の成長と機会を与えるために受け入れ人数を増やし、無事終えることができました。これには施設、富山県山岳連盟、選手、スタッフ、協力会社、協賛様の理解があつてのこと。

感謝いたします。

\*会場の運営会社が新しいボルダージムを富山市に開設。会社のPURPOSEが問われる時代に、スポーツをもって、地域貢献、社会課題解決に取り組んでいる姿をこの場を借りて紹介したいと思います。



# 第9回ボルダージュース日本選手権倉吉大会 (BYC2023) 開催報告

大会副実行委員長 山田 佳範

ボルダリングを「ボルダー」に改めて初となる第9回の同大会を6月10日11日、鳥取県倉吉市の倉吉体育文化会館で開催した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、ほぼコロナ前の運営態勢で開催できた。全国から314名の選手の参加と多くの観客の観戦により、初夏の山陰を盛り上げた。

## 競技結果

予選はこれまでの大会と同様に8課題によるコンテスト方式とし、二日目の決勝は予選上位6名による3課題でのワールドカップ決勝方式とした。

男子ジュニアは、第2課題までを2完登した関口、田宮、村下、篠沢4名が並び、最終課題の勝負となった。そのうち、田宮はラストトライの残り2秒で最終ホールドをピタッととらえ、3完登で優勝した。ゾーンまで達した関口と篠沢が2位、3位に食い込んだ。

女子ジュニアは、2課題までで竹内、葛生2名が2完登してリードし、小倉、野部、工藤、伊藤が1完登で2名を追う展開となった。第3課題は各選手がゾーン獲得を苦勞する中、小倉は体を下げた安定した姿勢でゾーンホールドを取り、さらに最後の遠いゴール取りに成功して2完登し、逆転で優勝をもぎ取った。2位と3位にはそれぞれ2完登の竹内、葛生が入った。

男子ユースAは、第2課題を5人完登し、第3課題も6人全員が完登した。結果的には第1課題を唯一撃で完登した寺川が3完登で優勝した。寺川は予選6位通過であり、逆転での優勝となった。2位、3位は2完登した3名のうち、アカウント差で、杉本が2位、加藤が3位となった。

女子ユースAは、第2課題までを2完登していた村越、山のうち、第3課題を一撃した村越が優勝した。3完登した山が2位、2完登した永嶋がアテンプト差で

3位に入った。

男子ユースBは、第1課題は完登者0、第3課題も完登0、ゾーン0の厳しい設定であり、第2課題の成績で順位が決まった。第2課題を3回目のトライで登った長森が1位、4回目で登った笹原が2位、6回目で登った濱田が3位に入った。

女子ユースBは、第2課題までで2完登した4名の争いになる。しかし、第3課題は完登0の厳しい設定の課題となった。第1課題を8回目、第3課題を5回目で何とか攻略していた松浦は、第3課題の最後のトライで粘り強くゾーンを獲得し、逆転で優勝した。2位、3位はアテンプト差で小田と小屋松が入った。

## 【成績】

男子ジュニア		女子ジュニア	
1位	田宮 瑛人	1位	小倉 紗奈
2位	関口 準太	2位	竹内 亜衣
3位	篠沢 諒	3位	葛生 真白
男子ユースA		女子ユースA	
1位	寺川 陽	1位	村越 佳歩
2位	杉本 侑翼	2位	山 真奈実
3位	加藤 頼斗	3位	永嶋美智華
男子ユースB		女子ユースB	
1位	長森 晴	1位	松浦 朱希
2位	笹原 蓉翠	2位	小田 菜摘
3位	濱田 琉誠	3位	小屋松 恋

## 最後に

今回、ユースBは男子78名、女子66名の参加者となった。フィーチャーカップで活躍した世代が上のカテゴリーに入って参加希望者が膨らみ、エントリー開始からものの数分で定員を大きく上回る申込があった。今後はこの傾向はさらに強まる可能性がある。大会参加資格を得るためのジャパンツアーのようなユース大会の体制づくりやポイント制の導入など何らかの対策の検討が必要とされてくるであろう。



男子ジュニア田宮選手



女子ジュニア小倉選手

今大会は久しぶりの感染症対策がない大会となり、地元の飲食ブースの出店で会場全体の賑わいが増し、大会自体が盛り上がった。また、4月のボルダー&リードジャパンカップに引き続き、主要大会の運営をサポートしていただいた地元スタッフの尽力にはいつもながら感謝申し上げたい。ユース世代の選手の皆さまには、多くのスタッフの協力あってこそその大会開催であり、そのことに感謝の気持ちを持って日々の練習に励み、さらなる成長と活躍をしていただくことを期待したい。



大会スタッフ集合写真



男子ジュニア表彰式



女子ジュニア表彰式



男子ユースA表彰式



女子ユースA表彰式



男子ユースB表彰式



女子ユースB表彰式



**特別国体「燃ゆる感動かごしま国体」  
スポーツクライミング競技リハーサル大会  
第10回日本学生スポーツクライミング対校選手権大会 報告**

～コロナ禍で3年ぶりの開催～

2020年3月筆者は、鹿児島県南さつま市役所において、鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟の「国体準備会議」に出席していた。

開口一番、「本日、鹿児島の仲間の皆さまが国体準備に際してご議論いただいているなかではありますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が非常に不安定で6月開催予定の、全日本大学スポーツクライミング対校選手権大会の開催を中止したい。」と、ご理解を求めました。

一旦、連盟内部や会場地である南さつま市国体実行委員会、鹿児島県国体実行委員会等と協議し結論を早急に出したい、とのご意見をいただきました。

本委員会内部からは、「中止判断は、時期尚早」の意見もありましたが、結局は、本大会までもが「中止→延期」となり、新型コロナ感染症の全国的な蔓延に至ったことは、周知の事実となりました。

幸いにも、鹿児島県の英断と佐賀県のご協力により、「大会は中止ではなく、延期」となり、今年を迎えることができました。感無量でした。

さてリハーサル大会は、6月9日(金)～11日(日)の3日間、開催されました。鹿児島地方には前日から、大雨警報が発令され、ボルダリング競技会場の観客席は浸水、本大会選手／監督宿泊地である指宿市への道路は、脇からの流水などが確認される中で開催されました。

遠隔地での開催ということで、リハーサル大会にふさわしい参加者が集まるかと危惧をしましたが、日本代表選手や九州各県から多くの参加者があり、国体リハーサル大会にふさわしい競技運営を行うことができました。

男子総合では、日本体育大学。女子総合では九州産業大学が栄光をつかみ取りました。

おめでとうございます。

最後になりますが、大会開催にご尽力いただきました、南さつま市国体実行委員会、鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟、九州地区山岳協会の皆さまに、感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお4度、会場地実行委員会より、大会参加申込みに際し、選手、関係者等への連絡調整等に多くの不備が生じ、苦言を呈された。また宿舎から競技会場への計画輸送の選手乗車が「0」という事態も発生した。



<第10回日本学生スポーツクライミング対校選手権大会> 対校順位

男子総合成績		女子総合成績		参加者数(人)		
順位	大学名	順位	大学名	種別	男	女
1	日本体育大学	1	九州産業大学	1部	44	10
2	日本大学	2	日本大学	2部	14	18
3	九州産業大学	3	立教大学	計	68	28
4	大阪学院大学	4	日本体育大学			
5	明治大学					
6	同志社大学					
7	摂南大学					
8	千葉大学					
9	立教大学					
10	青山学院大学					
11	慶応義塾大学					

大学協会として、具体的な選手への指導や組織運営等への徹底した改善が望まれる。

また本委員会をはじめ関係者においても反省すべき点も

あり、リハーサル大会開催の危機でもある。今一度、大会の見直しを含め、議論する必要がある。

(国スポ委員長 西原斗司男)

**JSPO国体競技運営部会報告(5/26)  
競技役員経費の競技団体負担を示唆**

5月26日(金)久しぶりの対面での、JSPO国体運営部会。多くの課題、報告があった。

提案説明のあった項目は、以前からくすぶり続けていた案件も多く、また、最近問題となっているスポハラ(スポーツ・ハラスメント)についての対応も強調された。

本委員会にとって重要な点は、所要経費、アンチ・ドーピング教育受講、大会運営関係などである。とりわけ、参加資格や棄権・交替等の扱いに関してはブロック大会での対応も生じることから、周知する必要がある。なお今後、国スポ運営に関して、主催団体の一翼を担う競技団体として、財政負担を示唆する説明もあり、財政難に陥っているJMSCAにとって、厳しい状況が待ち受けている。

**◆SAGA国スポから欠食申出の変更◆**

国スポ本大会において、欠食控除の適用について、これまで「前々日までに申し出た場合に限る」としていたところを、宿泊施設における生鮮食材の準備期間の実情とSDGS(食品ロスの縮減)の観点から、「4日前までに申し出た場合に限る」と変更されます。

各PF競技関係者、指導者、国スポ監督は注意してください



い。欠食申出がない場合、キャンセル料が発生します。  
国体競技関係者の皆さん、ご注意ください。

### ◆アンチ・ドーピング教育の義務化◆

今年度から開催される、国民体育大会から「アンチ・ドーピング教育受講」が参加資格となります。

本協会は、以前から「倫理・AD研修」「ブロック別研修会」「ブロック大会」「各競技会」等においてアンチ・ドーピング教育活動に努めてきました。今後も、多様な機会をとらえて受講されるようお願いいたします。

#### ・対象者

選手(エントリー変更により参加する可能性のある選手含む)、監督、選手団本部役員帯同スポーツDr、選手団本部役員帯同J S P O - A T、少年種別に参加する競技会出場時に、18歳未満である選手の保護者

#### ・実施時期

国体本戦出場前1年以内

### ◆大会運営関係への財政支援を示唆◆

大会開催における開催地(ブロック大会含む)の負担軽減に向けた取り組みとして、開催都道府県・市区町村

実行委員会、開催都道府県、県競技団体等開催地における具体的かつ積極的な対応について、

- ・既存施設・用具の有効活用の推進(例:施設基準のより弾力的運用/用具整備の貸与、共同購入)
- ・開催経費への支援又は一部負担(実施競技団体からの開催支援金/中央派遣役員に係る経費負担)などの考え方が示された。

競技施設整備が充実していない本協会にとって、非常に厳しく、かつ、国スポ後催PFとの連携がより重要となってくる。

### ●J S P Oへの要望事項

- ・「ボルダリング競技名称」→「ボルダー競技」承認
  - ・「(S A G A国スポからのリード競技4ルート化にともなう)4ルート化役員編成改正」→「保留」
- ※いずれも、後催県への調査結果。

この結果、現行の2ルート役員編成ではS A G A競技施設「4ルート」での競技は不可能。

(国スポ委員長 西原斗司男)

## 2023年度 全国指導委員長会議・ スポーツライミング代表者会議報告

2023年6月3日(土)13:00~17:00・4日(日)9:00~11:00

2023年度全国指導委員長会議・スポーツライミング代表者会議が埼玉県県の県民活動総合センターで実施されました。山岳、スポーツライミング共に指導委員会は首都圏の常任委員のみ会場にて集合形式で参加。各地からはWEB参加と会場参加のハイブリッド開催にて実施されました。

また昨年同様、山岳とスポーツライミングの運営は兼任している都道府県も多いこともあり、山岳の指導委員長会議の後にスポーツライミング代表者会議も併せて実施となりました。

参加者は対面出席38名、WEB出席39名、合計78人となり都道府県の90%をカバーする参加となりました。山岳、スポーツライミングそれぞれの昨年度の事業報告、委員会のメンバー紹介と役割分担、本年度の事業計画の説明とそれぞれの主任検定員の状況が説明されましたが、コロナ過で中止していた事業も再開されております。

\*スポーツライミング指導委員会では昨年全国9ブロックでコーチ1養成講習会を開催し、佐賀国体から監督がスポーツライミングのコーチ資格しか対象とならない為の対応でした。

\*現在J M S C A傘下以外でコーチ資格が取りづらい点



2023年6月3、4日開催の指導委員長会議集合写真

も問題視しておりますが、都道府県の養成講習会の対応も議論されました。

\*夏山リーダー制度も昨年、上級編がU I A Aの視察を受け、公認となったことで今後の夏山リーダー制度の展開を説明し、山岳指導委員会、U I A A委員会が今年も推進していく事になっております。

\*令和6(2024)年度J M S C A指導者表彰(令和6(2024)年1月表彰対象者の報告もありました。

福島県:平子 吉政、山梨県:上原 昭則

福岡県:寺崎 良夫

コーチ資格15年以上で都道府県岳連、J M S C Aでの貢献が対象となります。

日本スポーツ協会の共通資格制度上の事項もあり、今後も山岳、スポーツライミング共にそれぞれの指導委員会の活動を共有し、推進していくことになります。

\*2023年度指導委員長会議開催予定

令和6年6月1日2日 山岳指導委員長 野村

スポーツライミング指導委員長 藤江



# Enjoy Climbing

## パキスタン チャラクサ氷河クライミングツアー 2022

### 佐藤裕介 記

3月下旬、坂もっちゃん(坂本)とフリークライミングを1日楽しんだ夕方、明日予定している瑞牆パキトレについて彼と話し合った。よりによって本格的なトレーニング初日から雨予報である。かなりの降水になりそうだし雪になる可能性も十分にあり得た。先月決めた通りトレーニングは雨天決行だ。

「海外の山のクライミングって好条件の壁だけを登ってただけでは通用しないよ。暗い時もあれば壁が濡れることだってありえる。そういう悪条件でもしぶとくピーク目指して登り続けられる奴が完登できるんだよ」と佐藤が偉そうに講釈を垂れ決めた方針だった。

坂本「出発を早めましょうよ。パキの本番で雨が降るのが分かっている、本気トライすることなんてないんじゃないですか?」ともっともな意見が出て本格的な降水前にマルチを数本登れるようにすることに決めた。朝9:00には本格的な降水となりそうなので登攀時間を9時間は確保しようとするので今日の夜半に登り始めなければならない。これから各自自宅に戻って大急ぎで用意を整えとんぼ返りで集合すると決めて22時集合とした。ほぼ全員徹夜状態で集合。23時から歩き出した。いつものように「ペチャクチャ」お喋りしながら楽しくスタート。「これだけお喋りしながら本気トレーニングしているパーティーもいないだろう」って言うほどに緊張感のないアプローチだが「チャラクサクライミングツアー」という舐めた遠征隊名にも現れているように、僕は楽しさを求める遠征にしたいと思っていた。

3年前のパタゴニアでの事故以降、自分の山を再開するにあたり僕のなかで確固たる決意が生まれた。なんだかカッコ良く決意なんて表現したが、要は「完全に人生を楽しもう」と言う当たり前のこと。コロナ渦になって以前には考えられないようなことが起こっている。クライミングをしていれば事故もあるかもしれないけど、人生何があるのか分からないとこの数年思い知らされた。今をしっかりと楽しまなければと強く思う今日この頃である。

「全天候型のトレーニング方針」と「楽しみ」との間に違和感を感じる読者もいるだろうが、僕らが目指す「楽しみ」を達成するためなら必要な努力は惜しまない主義だ。日本の慣れ親しんだ環境でできないことは海外遠征でできるはずがない。少なくとも簡単に想定できることはトレーニングして行こうと思っていた。

至福の一時



簡単にメンバーの紹介をしておこう。

ルー君(田中暁): ヌボーとした顔で常にヤル気があるか無いのか良くわからないがクライミングセンスは抜群だ。筆者同様沢登りも好きだが、沢を目的に行ったレユニオン島へ着いて初日の「乾杯!」と同時にぎっくり腰になった程の「ガラスの腰」を持つ。実はチョーお喋り。

坂もっちゃん(坂本健二): 坊主にメガネ。どこにでもいそうな学生に見えてしまう彼もいつの間にか40歳だが、相変わらず脱ぐと凄い。風呂場で彼にあったクライマーは尊敬の眼差しでその身体を見つめることになるはずだ。少なく見積もっても5.14は登れそうなボディを持つ。口癖は「腹へったなあ」。いまだに学制的な食欲を維持している。

ゆーすけ(佐藤裕介): 割りとオールラウンドに登山を続けてきたが、パタゴニアで大事故を起こし負傷。3年ぶりの海外クライミングとなる。負傷とは関係ないが物忘れが酷く「周りが気を付けてくれないと困る」とメンバーに伝えるほど。常に監視が必要なリーダー。ヤル気だけはある。

瑞牆パキトレ初回の話に戻ろう。

計画通り一本目は「調和の幻想」から。末端壁で登攀準備をしリード役の佐藤がライトに照らされた壁に取り付いた。しかし早くも雪がちらつき出し先行き不安である。今回基本的にはリード役とフォロー役がいて、サードは大半の荷物を背負ってユマーリングする機会が多い。システムの変更を頻繁にするのは時間がかかるので、瑞牆では概ね1ルートを登りきるまではリード役は固定で行った。

ピッチを進める毎に壁は雪に覆われていき信じ難いことに最終ピッチはまるで冬の錫杖や明神を登っているかのような状態になってしまった。本気でクランポンとウインターブーツが欲しいほどの雪まみれの壁をTC Pro(ミドルカットのクライミングシューズ)でジリジリと進む。手の感覚は遠退き、フラットソールは滑りまくる。本当に恐ろしい。暗闇の中、ビレイヤーに何度も「頼むぞー」と呼び掛けなければならないほどに極度に緊張したクライミングとなった。

自分を出し切るようなクライミングを久々に実践し3



年間忘れていた本気の自分を見て「俺もまだ行けるかもな」と感じた。本気のクライミングが俺はやっぱり好きなんだと言うことも再認識した。雪壁のフリークライミングは懲り懲りだけ。。

最低でも数本は継続しようと思っていた当初の狙いは脆くも崩れ、本日はこの一本で終了。何はともあれ、いきなり事故にならなくて良かった。怪我をする前に退散しよう。

これ以降のパキトレは天気さえ持てば毎回20時間以上登り続ける内容となり週一程度のトレーニングとは言えども中々ハードな内容となった。誰の行いが祟ったのか知らないが一日の最後は雨のピークと言うことが定番化するくらいトレーニング時、雨が良く降ったものだ。

単純なクライミング能力と体力と言う面では当初からそれなりの力量を持ったメンバーだったが佐藤以外は海外の氷河上でのクライミング経験はほとんどない状態だった。それでもパキスタンに向けたトレーニングを積み重ね、夏が始まる頃には遠征パーティーとしての実力も上がってきたことを実感することができた。

「これだけやれば結構登れるでしょう」と各自にもそれなりの自信が生まれたはずだ。

パキスタン遠征前の最後のトレーニングが終わった日、これだけの内容の濃いクライミングを続け誰も怪我なくトレーニングを終えられたこと。またこんな辛いトレーニングをもうやらなくて良い事にホッとしている自分がいた。

## 岡山県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGsな活動

岡山県山岳・スポーツクライミング連盟(以下「連盟」)における山岳環境保護活動の現状は、コロナ禍の影響と、それに拍車をかけるように進んだ会員の高齢化により衰退傾向を感じています。県内の登山道も人気の高い山は整備も行き届いていますが、登山者が減るとだんだん登山道も荒れ、野生動物も里に下りて来て鳥獣被害をもたらすようになってきました。自然保護委員会としては、各山岳会に自然保護を啓発していく方向で取り組んでいます。

連盟における自然保護委員会の主な活動は、①4月に自然保護指導員の募集月間として、各山岳会に募集と更新のお願いをしています。ここ数年はコロナ禍の影響で活動も出来ない状況で周知が難しく、同時に会員の高齢化に伴い山歩きをしなくなったことで自然保護指導員の更新がなされず、結果自然保護指導員数も減っています。コロナも5類になり、活動が再開され山登りも以前に戻りつつあります。新規自然保護指導員の獲得を重要事項として、目標に掲げ取り組んで行こうと思っています。

活動②は、毎年恒例の登山道整備(刈込と清掃)。本宮高倉山の山頂及び登山道を整備しています。それもここ3年はコロナ禍の為中止をしてきました。最後に

登山道の刈込と清掃を実施したのは、2019年11月24日(日)10:00～11:30で、実施参加者は9名でした。

活動③は自然保護研修会です。一つは新規自然保護指導員の為に「自然保護指導員の手引き」を解説。また委員長が全国大会の総会・研修会に参加して研修した内容の伝達講習会を兼ねて1泊2日の宿泊研修をしています。初日に自然保護研修会、夜は親睦会、翌日午前中に自然観察会をします。宿泊での実施は、以前から県本部の忘年会が無かったのを兼ねて開催していたと聞いています。夜の会も楽しみでよく参加しましたが、残念ながらコロナ禍3年間は開催できませんでした。

今年度より新しい委員長に代わりますが、今後の大きな課題はやはり自然保護指導員の人数を増やすことだと思います。そして、山岳会の人達だけでなく山登りで山を利用する人達全てが、山だけでなく海や川や野原も含めた全ての自然界の自然保護を考えていく必要があると考えます。さらにこれからの時代、スマホやSNSによる情報発信(啓発)は益々大きな影響力を持って行くことから、これらを上手く活用していくことも啓発の一つの方法かなとも思っています。

(岡山県山岳・SC連盟 前自然保護委員長 濱本幸弘)



草刈り風景

# 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会

## 令和5年度 定時総会・議事録

○日 時：令和5年6月18日(日) 10:00～14:40  
○場 所：AP浜松町F会議室とWebのハイブリッド会議  
次 第

### 1. 開 会

事前配布した議事次第では67名の正会員と記述がありますが、正しくは71名となります。ここに訂正してお詫びいたします。

- ・会議成立状況(定款第18条)正会員数71名 客足数過半数36名以上
- ・正会員=71名 出席(本人出席64名、委任状7名)  
上記にて会議は成立した。

### 2. 出席者

※印は対面、他はオンライン

丸誠一郎会長※、亀山健太郎、小日向徹※、古賀英年※の各副会長、小野寺齊専務理事※、相良忠磨※、蛭田伸一※、村岡正巳※、濱田豪※、赤尾浩一※、町田幸男※の各常務理事、原秀樹※、前田善彦※、山本讓※、野村善弥※、青山千彰、安井博志※、栗田季慎子※、小竹靖高※、水島彰治※、水村信二※、山口純子※、小高令子※、望月啓治※、丸山尚子※、中橋沙羅※の各理事中畠正喜※、古屋寿隆※、佐久間務※の各監事石井昭彦(北海道)※、服部一雄(青森)、吉田春彦(岩手)※、村上美智子(宮城)、齋藤喜代志(秋田)、大滝潤二(山形)、平子吉政(福島)、西内博(茨城)※、糸川章(栃木)、吉田直人(群馬)※、加藤富之(埼玉)※、蛭田伸一(千葉)(役員)※、廣川健太郎(東京)※、水島彰治(神奈川)(役員)、小宮山稔(山梨)※、稲田春男(新潟)、杉田浩康(長野)※、中西紀夫(富山)※、山本利幸(福井)、木ノ内高嘉(静岡)、伊藤智彦(愛知)※、加藤正之(三重)※、小木曾昭文(岐阜)、澤山恵(滋賀)※、小畑和人(大阪)※、古賀英年(兵庫)(役員)※、藤本直民(奈良)※、小坂秀己(鳥取)※、松本実(島根)、石原敬士(岡山)※、山田雅昭(広島)※、古林喜明(山口)※、木村康男(香川)※、原秀樹(徳島)(役員)※、寺崎良夫(福岡)、宮原敏明(佐賀)※、古川好幸(長崎)、西本安幸(熊本)※、原勇人(大分)、松崎保忠(宮崎)、細川浩(沖縄)※、前田善彦(高体連)(役員)※

委任 六角智之、笹生博夫理事、新耕一(石川)、湯浅誠二(京都)、山口進(和歌山)、福永幹郎(高知)、

永谷常和(鹿児島)正会員

### 3. 同席者

顧問：田中文男、本木總子、神崎忠男、八木原暁明  
顧問弁護士：萩原崇宏  
委員長：服巻辰則※、岩崎洋※、恒石直和※、中島隆行※、藤江理枝※、杉本怜※の各委員長  
新役員候補者：飛松好子、佐藤建、樋口喜朗、島田邦昭、西谷善子、畑中渉、平田伸也、小田部拓  
オブザーバー：百瀬恭平(競技委員会委員長)、竹内陸(株博報堂DYメディアパートナーズ)

### 4. 欠席者

欠席委員長：谷口浩平、山本和幸、西原斗司男、宮澤克明、稲村彰映、樋口拓哉、角田元の各委員長

### 5. 会長挨拶

この度は、令和4年度の決算において、多大な損失を出したことで、ご心配をおかけし申し訳ございませんでした。詳細については、後ほどご説明申し上げたいと思います。

### 6. 議長選出

定款第16条にさだめるところにより、丸会長が議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第20条第1項に基づき、議事録署名人として丸誠一郎会長、望月啓治理事、石井昭彦正会員(北海道)を選任して議案の審議にはいった。

### 7. 議 案

丸会長が、令和4年度の決算について、背景、経緯の説明をした。その後各議案について、説明がされた。

議案第1号 令和4年度事業報告の承認について

小野寺専務理事から、配布資料を基に説明があった。

議案第2号 令和4年度収支決算の承認について

濱田常務理事から配布資料に基づいて説明があった。その後、古屋監事から監事監査報告、監査所見が報告



された。

その後以下の点について質疑応答と意見がだされた。

1. 赤字決算の原因と対応について
2. 予算執行の現行手順と、海外出張について
3. 令和5年度の収支見込と、今後の対応について
4. 理事会を含むチェック体制、第三者委員会を含むPT設置について
5. 当総会での採決が不可となった場合の対応について

上記協議の結果、新規に委員会を設置する等の方向性が確認された。

●議長が議場に採決を諮った。

議案第1号について

賛成：会場42名、オンライン13名、委任5名  
合計：60名となり原案どおり承認可決となった。

議案第2号について

賛成：会場38名、オンライン、8名、委任5名  
合計：51名となり原案どおり承認可決となった。

議案第3号 次期役員の選任について

議長から、役員候補者は配布資料)のとおりだが、監事3名の内、中嶋正喜氏から辞退の申し入れがあったので、当人については議案の撤回となった。

また、候補者・佐藤健氏は、建が正しい旨訂正された。  
その後、質疑応答がされた。

●議長が議場に1名ずつ採決を諮った。

(理事候補30名)

飛松 好子、野村 善弥、小高 令子、  
栗田季慎子、望月 啓治、吉田 春彦、  
蛭田 伸一、小野寺 齊、前田 善彦、  
濱田 豪、赤尾 浩一、古賀 英年、  
町田 幸男、山本 譲、佐藤 建、  
村岡 正己、樋口 義朗、島田 邦昭、  
中島 隆之、安井 博志、小日向 徹、  
水村 信二、杉本 怜、西谷 善子、  
畑中 涉、平田 伸也、小田部 拓、  
中橋 沙羅、山口 純子、丸 誠一郎、

(監事候補2名)

古屋 壽隆、佐久間 務

上記の結果、1名を除き、理事候補29名、監事候補2名が承認された。

<1:22-1:50 昼食>

## 8. 報告

報告第1号 令和5年度事業計画及び収支予算について

小野寺専務理事と濱田常務理事が配布資料を基に説明し、6月末に仮決算を行い、補正予算を組む予定であることを伝えた。

報告第2号 加盟団体振興推進PTについて

古賀副会長、亀山副会長が配布資料を基に説明した。

報告第3号 令和4年度山岳共済会事業報告と収支決算、監査報告について

小野寺専務理事と相良常務理事、古屋監事が配布資料を基に説明した。

報告第4号 令和5年度日山協山岳共済会事業計画と収支予算について

小野寺専務理事と相良常務理事が、配布資料を基に説明した。

報告第5号 第59回全日本登山大会・千葉大会について(令和5年度)

蛭田常務理事(千葉県山岳・SC協会理事長)が配布資料を基に説明した。

報告第6号 諸般の報告について

蛭田常務理事(千葉県山岳・SC協会理事長)が、デジタルプラットフォーム(登録管理)システムの開発状況と、それを利用した資金援助の仕組みの説明を行い、関係者の協力を呼び掛けた。

## 9. 閉会【丸会長挨拶】

今回いただいた貴重な意見を基にして、新役員で対応していきますので、今後ともよろしくお願ひします。

以上をもって、オンライン会議システムは、終始異常なく、議事全部を終了した。

以上

令和5年6月19日

記録 赤尾 浩一

# 令和4年度全国山岳遭難対策協議会 報告

遭難対策委員長 服巻 辰則



全国山岳遭難対策協議会が、令和4年7月7日(金)に文部科学省講堂とオンライン参加のハイブリッドによる開催された。参加者は講堂95名、オンライン560名(いずれも事前申込者数、主催関係者除く)であった。今年から分野別の受付ではなくなったため山岳関係者の参加実態の把握はできていないが、現地参加の山岳関係者は30名程度と思われた。

以下、協議会の内容について報告する。

## 報告Ⅰ「令和4年における山岳遭難の概況」

例年実施されている山岳事故件数について、警察庁の堀池課長補佐より報告があった。R4年度は新型コロナ禍であった過去3年間から一転して遭難者数が過去最大の3,506人となった。遭難者のうち死者数はグループ登山に比して単独の場合の比率が圧倒的に高いことが示された。近年の登山者層の分析として、R4年度は登山遭難者のうち30～49歳の層が増えていた。新型コロナ禍との関係は不明であるが興味深い傾向であり、今後の傾向を注視したい。

## 報告Ⅱ「山岳遭難救助に係る体制と厳冬期における山岳遭難救助事例」

山形県置賜広域行政事務組合米沢消防署の高橋主任より、山形県南の米沢市を含む地区の山岳遭難への対応状況について報告があった。地域特性としては森林地域が多く、険しい滝が多いため比較的重度の遭難事故が発生している地域と説明された。専任の山岳救助隊を有しない状況で、消防本部としてどのように対応しているのかを組織面・運用面から説明をし、厳冬期の遭難救助の事例について2件の紹介があった。

## 講演「三重県における山岳遭難と登山ポストプロジェクト」

JMSCA遭難対策委員会から地方の減遭難活動に資金補助を行っている都府県のうち三重県の取り組みについて報告をお願いした。三重県警の大橋課長補佐からは三重県における山岳遭難の状況について、次いで三

重連盟の草川理事長から登山届の提出促進のための登山ポストプロジェクトの報告があった。プロジェクトでは綿密な事前調査を踏まえて推進していること、山岳連盟、警察、自治体の三者が連携・協力して実施していることなど、他都道府県の参考になる事項が詰まった報告であった。

## 講義「自立した登山者となるために～デジタルの活用とメディアリテラシー～」

総合司会：村越真 静岡大学教授

午後はここ数年と同じく村越教授のファシリテートによるワークショップであった。近年発達してきている各種メディアの利用やデジタルツールの功罪について考えていくテーマであった。

### ①「神奈川県警における山岳遭難防止に向けた取組」

宇野靖(神奈川県警課長補佐)

神奈川県警では、テレビ番組等のマスメディアを積極的に利用して山岳救助隊の活動を広報するとともに、登山者への登山届提出などの啓蒙活動を行っている。マスメディアへの売り込み体験等もご披露され、関係機関の参考になったものと思われる。

登山届のCompassとYAMAPの両方と提携をすることにより、紙の登山届提出数は減少しているが、Webを通じた登山届全体としては増加している旨のお話しをしていただき、遭対委員会としてもCompassの普及に力を入れたいと再認識した。

### ②「デジタル情報と登山者の行動を左右するもの」

梅田正弘氏(盛岡山想会)

山岳気象サイト「てんきとくらす」の解説を中心に、様々なWebサイトを紹介しつつ、単独の情報にとらわれずに複数の情報を利用することの重要性を紹介した。

### ③「登山用具販売店による情報発信の取組」

設楽文昭氏(株式会社モンベル)

モンベルにおける店舗、会員誌、ウェブサイトを通じた情報発信について説明を行った。地域警察との連携によるスタッフ向け講習会を通じて顧客への正しい情報発信に努めていることも説明された。

以上3件の講演者のパネルディスカッションと、QRコードを使った参加者のリアルアンケートを実施して、デジタル情報の有用性と課題についてまとめた。最後に登山研修所米山所長による山岳遭難事故防止のための提案と、JMSCA小野寺専務理事からの挨拶を頂き閉会となった。



○日時：令和5年6月1日(木)  
14:05～17:55  
○場所：J S O S ビル3F会議室1と  
Webのハイブリッド会議

○出席者：丸会長、亀山、小日向、古賀各副  
会長、小野寺専務理事、相良、村岡、蛭田、  
濱田、赤尾、町田各常務理事、前田、山本、  
青山、栗田、水村、安井、山口、水島、野村、  
小竹、原、小高、望月、丸山、各理事  
中島、古屋、佐久間各監事  
○欠席者 笹生、六角、中橋理事

## 1. 開会 2. 丸会長挨拶

令和4年度の決算に関連して、いろいろ  
なご意見等をいただいているが、密度の濃  
い内容のご意見が出されることを期待した  
い。朗報として、2024年のオリンピック重点  
競技としてスポーツライミングがAラン  
クとなり、社会からの期待と使命が高まっ  
てきていることを皆さんにお伝えしておき  
たい。

3. 会議成立状況報告  
理事数28名中25名出席、  
監事数3名中3名出席  
(定款第33条、定足数＝15名(1/2以上))  
4. 議長選出  
丸会長が議長を務める(定款第32条)。  
5. 議事録署名  
会長及び監事(定款第34条)  
6. 議題(注. 審議順に記載)

ガバナンス委員会恒石委員長が、本日の  
理事会に、オブザーバーとして参加すること  
について諮り、異議なく承認されたので、こ  
の後会議室に入室した。

議案第1号 議事録の承認について  
令和5年度第2回理事会議事録の承認に  
ついて(事前送付済)  
異議なく承認された。

議案第2号 令和4年度総括・事業報告に  
ついて

丸会長が配布資料をもとに、(6)収支報  
告概要(7)経営上の課題と対策について説  
明した。その後以下の件について質疑応答  
と意見が出された。

- JOCの助成金額の連絡と確定までの経  
緯について
- 収支決算書の中身について
- 助成金の申請と、事業計画上の予算につ  
いて
- SC競技委員会の収支について

議案第3号 令和4年度決算、監事監査報  
告について

古屋監事が、配布資料を基に、過去の予  
算管理規程と運用規律の制定経緯の説明を  
行った。その後、令和4年度監事監査所見の  
監査指摘事項の説明を行い、質疑応答と意  
見が出された後、採決を取った。

議案第2号 総括・事業報告について  
反対2名(水島理事、望月理事)、

棄権ゼロ、賛成22名  
議案第3号 決算、監事監査報告について  
反対1名(水島理事)、  
棄権ゼロ、賛成23名  
議案第4号 総会対応、その直後の理事会  
について

赤尾事務局長が配布資料を基に、資金運  
用状況を説明した。また、予算執行伺いのフ  
ローを説明し、当該プロセスの導入につい  
て採決をとり、以下のように異議なく承認さ  
れた。

- 反対0名、棄権0名、賛成25名
- 丸会長から、複数の対策案を作成するた  
め、緊急対策協議会を設定し、以下の内容で  
進めることの提案がされた。
- 中心メンバー(案)  
丸会長、  
SC部：村岡常務理事、水村理事、安井理  
事、登山部：蛭田常務理事、小田部委員長、  
古屋監事、小野寺専務理事、濱田常務理  
事、赤尾事務局長
  - 開催日時は別途決定(後日、6月7日(水)  
PM3:00から開始で決定した)
  - 即効性のある緊急対策についても協議。

さらに、小野寺専務理事から、6月13日  
(火)に臨時理事会の開催提案がされた。前  
述緊急対策協議会と、臨時理事会の開催に  
ついて採決をとり、異議なく承認された。

議案第5号 R5年度 予算配賦アローケー  
ション修正についてなど

濱田常務理事が配布資料を基に、3月に  
承認された予算案の管理費を是正する旨を  
説明した。また、令和5年度予算執行状況か  
ら、補正予算を作成する前提で、異議なく承  
認された。

議案第6号 財務委員会からの報告  
濱田常務理事が配布資料を基に、財務管  
理体制と今後の予定、予算執行に関わるア  
ンケートの結果を説明した。

議案第7号 2023アジアユースカップ選考  
基準について

小野寺専務理事が、配布資料を基に、常  
務理事会ですでに承認済であることを補足

し、異議なく承認された。  
議案第8号 参与の推薦について  
小野寺専務理事が配布資料を基に、服部  
一雄氏の推薦について説明し、異議なく承  
認された。

7. 報告(注. 報告順に記載)  
報告第1号 月次報告について  
報告第2号 BWC収支報告について  
小野寺専務理事が、上記2件とも完成ま  
でに時間がかかる旨伝達した。  
報告第3号 日山協山岳共済会令和4年度  
決算について  
小野寺専務理事が配布資料を基に説明し  
た。

報告第4号 日本山岳ガイド協会「安全の  
ための知識と技術公開講座」後援名義使  
用承認について  
小野寺専務理事が配布資料を基に説明  
し、常務理事会で承認された旨報告した。

報告第5号 キャッシュフローについて  
赤尾事務局長が議案第4号で説明済。  
報告第6号 ユースリード強化選手につ  
いて

小野寺専務理事が配布資料を基に、選考  
基準に則り、常務理事会で承認された旨  
報告した。

報告第7号 競技委員会常任委員について  
小野寺専務理事が配布資料を基に説明  
し、常務理事会で承認された旨報告した。

報告第8号 業務執行理事の職務執行報告  
について  
各業務執行理事が、配布資料を基に報告  
した。

報告第9号 役員派遣について  
小野寺専務理事が、配布資料を基に説明  
した。

8. その他  
決算状況の公開は、総会資料が届くまで  
は、非公開とする。  
今後の難局に対して、理事、監事がワン  
チームで対応する必要がある。

以上  
令和5年6月1日  
記録 赤尾 浩一

2023年5月15日(月)

公益社団法人  
日本山岳・スポーツライミング協会様

八木原 聡明

謹啓新緑の候皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
令和5年春の叙勲に際しましては貴協会の定款などをご手配いただくなど、たくさん  
のお手を煩わせてしまいました。お陰様で旭日小綬章を受賞することが出来ました。  
去る5月12日国立劇場にて勲記・勲章の伝達を受け、同日午後皇居に参内し豊明殿にて  
天皇陛下に拝謁し、ねぎらいのお言葉を賜りました。これらも偏に山仲間や多くの先輩、友  
人そして御社をはじめとする皆様方のご厚情、ご指導、ご支援のお陰と心より感謝申し上げ  
ます。「山に感謝、山登りに感謝」し  
「多くの登山愛好者の代理として」お受けしました。ありがとうございました。本年11月  
には喜寿です。余生は谷川山岳資料館の充実した運営、先輩方が連綿と築いてこられた山  
岳文化の承継と山を共に登り、喜び合った仲間、心ならずも山に逝った仲間たちのことを忘  
れることなく語り、書き続けて参ります。登山は自然の中で自立し、一人でも生きて行ける  
術や喜びまでも教えてくれました。未知を、不自由を楽しめ、と若い人に伝えて参ります。  
皆様のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申しあげ、御礼の挨拶とさせていただきます。謹白

8月号より開始! かすみちゃんのハイキング日記



## 表紙のこぼ

蔵王山(蔵王連峰)は宮城県、山形県の県境に位置しており、宮城側の刈田岳(1757m)と熊野岳(1841m)の等のピークを持つ連峰です。

蔵王連峰の山々は火山群であり、御釜がある蔵王の中央部と、瀧山のある北西部、屏風岳のある南部の三つの火山帯に区分され、それぞれが爆裂火口を持っている。

夏季は山頂まで車で行けるため、気軽なハイキングコースとしても人気を誇り、冬季はスキーやスノーボードだけでなく世界的にも珍しい「樹氷」が発生し、季節問わず楽しめる。

(宮城県山岳連盟 齊藤幸太郎)

## 編集後記

チングルマが見たくなり秋田駒と姫神山に行ってきました。週の初めは大雨の予報でしたが、秋田県と岩手県だけが予報が代わり決行しました。アルパこまくさに駐車して8合目までバスで移動します。我々4人をいれて10人もいません。

片倉岳を超えて阿弥陀池小屋で休憩して男女岳、強風とガスで全く見えません。

メンバーの非難を浴びながら男岳、女岳を登り、ムーミン谷へ、あったー。一面チングルマです。登山道両面にびっしりです。これを見たかったのです。

一面ガスですが強風にもめげずなびいていました。砂地の斜面ではこまくさも揺れていました。山はいいよー。(蛭田伸一)

〒141-0031  
品川区西五反田6-3-23-205  
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第652号

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
(毎月1回15日発行)

発行日 令和5年7月15日  
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
Japan Sport Olympic Square 807  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631  
FAX 03-5843-1635

山岳  
雑誌

# 岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

8月号  
発売中

【特集】ライト&ファスト - 軽量化のすすめ -

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)

モンベルクラブ入会キャンペーン実施中!

▶年間購読が断然おトクに!

年間購読通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには  
モンベルポイント **5,000P**プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、  
次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人 U.L.  
ショルダー  
バッグ



※カラーはお選びいただけません。  
軽量で丈夫な生地を使用。  
登山中のサブバッグに!

限定  
デザイン

岳人  
カード

全国2,000カ所以上で  
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で  
さまざまご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>  
<https://www.gakujin.jp/>



全国の  
モンベルストア  
でも受付中!

お問い合わせ  
モンベルポスト

0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。



# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの普及支援</li> <li>自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング</li> </ul>	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの支援</li> <li>先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応</li> </ul>	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等)</li> <li>災害に強いまちづくりの支援</li> </ul>

立ちどまらない保険。

**MS&AD 三井住友海上**

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会\*をめざします。

\*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会





# 登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」  
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます